

事業名	大分県民芸術文化祭開催事業 (地域から文化力推進事業)	事業期間	平成 1 1 年度～平成 年度	上位の施策名	県民文化の創造
				担当課・局・室名	文化スポーツ振興課

[目的、現状・課題]

目的	対象	県民、文化団体	現状・課題	県民が広く文化についての理解と関心を深めるためには、文化活動に接する多くの機会が必要であるが、財政基盤が脆弱な文化団体単独では大分県民芸術文化祭のような大規模の文化イベントは実施できない。
	意図	芸術文化活動の発表と鑑賞機会の増加を図る		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト				
				20年度	21年度	22年度	23(予算)	
芸術文化フェスティバル	・開幕行事、閉幕行事、県美展を開催(3行事) ・研修事業、記念行事、ジャンル別文化行事、若者文化行事を開催(21行事)	間接補助	実行委員会	総コスト	31,200	33,000	28,000	28,000
				事業費	21,200	25,000	20,000	20,000
地域文化フェスティバル 参加行事	・地域文化行事を開催(7行事) ・文化団体による関連催事を後援(192行事) 全体総参加者数314,274人(うち主催行事参加者数37,159人)			うち一般財源	10,000	10,000	10,000	10,000
				人件費	10,000	8,000	8,000	8,000
				職員数(人)	1.00	0.80	0.80	0.80

[事業の成果等]

事業の成果	県内各地で開催された行事は223にのぼり、全体総参加者数は約31万人を数えた。芸術・伝統・生活など多様なジャンルの文化行事を開催し、県民に文化の発表・鑑賞機会を提供することにより、地域文化の活性化を図ることができた。	活動指標	指標名(単位)		事業の実績		最終目標		
			補助対象のみの開催行事数(回)		21年度	22年度	目標値	目標年度	
					33	31	30		
成果指標	指標名(単位)	達成度	20年度	21年度	22年度	23年度	最終達成(年度)	評価	備考
	全体の開催行事数(回)	目標値	180	180	180	180		達成	
		実績値	209	216	223				
		達成率	116.1%	120.0%	123.9%				

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	NPOとの協働が可能	大分県文化振興条例	実行委員会事務局は17年度から移管した民間団体が運営主体となっているが、県民芸術文化祭は個々の文化団体の発表機会であるとともに、全ての県民が文化活動の発表と鑑賞の機会を等しく得るための事業であり、県民の芸術文化振興策として非常に有効な事業であるため、民間団体と協働しつつ引き続き県が支援していく必要がある。

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	22年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている(拡大困難)	・実行委員会事務局を民間団体(大分県芸術文化振興会議)に移管 ・各種助成制度や基金の積極的な活用	20年度	22年度	22年度総コスト / 開催行事数
			149 千円/行事	126 千円/行事	

[総合評価]

方向性	現状維持	方向性の判断理由	
改善計画等	・各種助成制度や大分県芸術文化基金を活用することにより、事業規模は維持する予定		

事業名	芸術文化基金事業 (地域から文化力推進事業)	事業期間	昭和 6 0 年度～平成 年度	上位の施策名	県民文化の創造
				担当課・局・室名	文化スポーツ振興課

[目的、現状・課題]

目的	対象	県民、文化団体	現状・課題	文化団体は、財政基盤が脆弱で公的支援や協賛が得られなければ十分な活動が行えていない。そのため、文化団体と県が共同で積み立てた大分県芸術文化基金を活用して、NPO法人大分県芸術文化振興会議を通じて文化芸術活動を支援している。
	意図	文化芸術活動の振興を図る		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト				
				20年度	21年度	22年度	23(予算)	
補助事業	文化活動実施団体への補助(48事業)	間接補助	大分県芸術文化振興会議	総コスト	12,621	12,621	12,621	12,621
芸術鑑賞事業(文化キャラバン)	県内小中学校等での公演・展示事業(33会場)			事業費	7,621	7,621	7,621	7,621
文化芸術活動調査研究・情報発信事業	大分県文化年鑑の発行やホームページによる情報発信			うち一般財源				
				人件費	5,000	5,000	5,000	5,000
				職員数(人)	0.50	0.50	0.50	0.50

[事業の成果等]

事業の成果	NPO法人大分県芸術文化振興会議への補助を通して、県内の芸術文化団体による自主的な活動を支援し、芸術文化団体の幅広い連携を促進し、芸術文化の振興に寄与することができた。 ・団体会員 159団体、個人会員 150名 (平成22年度末現在)						活動指標	指標名(単位)		事業の実績		最終目標	
								文化キャラバン実施数(回)	29	33	30		
								補助事業数(件)	58	49	50		
成果指標	指標名(単位)	達成度	20年度	21年度	22年度	23年度	最終達成(年度)	評価	備考				
	文化キャラバン鑑賞者数(人)	目標値	7,000	7,000	7,000	7,000		達成					
		実績値	10,121	6,478	7,383								
		達成率	144.6%	92.5%	105.5%								

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	NPOとの協働が可能	大分県文化振興条例	文化団体と県が共同で積み立てた大分県芸術文化基金を活用して、NPO法人大分県芸術文化振興会議を通じて文化芸術活動を支援していることから、今後も県の関与が必要である。

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	22年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている(拡大困難)	・事業を民間団体(NPO法人大分県芸術文化振興会議)に移管	20年度	22年度	総コスト / 成果指標の実績値
			753 円/人	1,036 円/人	

[総合評価]

方向性	現状維持	方向性の判断理由	文化団体の活動を継続するためには引き続き支援が必要のため
改善計画等	・NPO法人大分県芸術文化振興会議とのより一層の連携		

事業名	別府アルゲリッチ音楽祭 (地域から文化力推進事業)	事業期間	平成 10 年度～平成 年度	上位の施策名	県民文化の創造
				担当課・局・室名	文化スポーツ振興課

[目的、現状・課題]

目的	対象	県民・県外者・県出身音楽家	現状・課題	世界的な高水準の音楽を享受できる機会が少なく、機会がある場合も一部のクラシック音楽ファンに限られている。
	意図	県民が優れた芸術を享受できる機会を提供する		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト	20年度	21年度	22年度	23(予算)
オーケストラ・コンサート マラソン・コンサート 県出身若手演奏家コンサート ピノキオコンサート	世界一流の指揮者とピアニストによるオーケストラ・コンサート 世界一流の演奏家による室内楽コンサート 県出身の若手演奏家によるコンサート 子どものための無料コンサート	負担金	アルゲリッチ 芸術振興財団	総コスト	40,000	40,000	38,000	38,000
				事業費	30,000	30,000	30,000	30,000
				うち一般財源	30,000	29,467	29,467	30,000
				人件費	10,000	10,000	8,000	8,000
				職員数(人)	1.00	1.00	0.80	0.80

[事業の成果等]

事業の成果	巨匠マルタ・アルゲリッチを中心とする国際音楽祭を、別府市、大分市の主催のほかに県内各地域で開催することにより、県民に優れた芸術を享受する機会を提供するとともに、国内外に向けて最高レベルの芸術イベント開催地として情報を発信することができた。					活動指標	指標名(単位)		事業の実績		最終目標	
	対象コンサート数(回)		21年度	22年度	目標値		目標年度					
		4		4								
成果指標	指標名(単位)	達成度	20年度	21年度	22年度	23年度	最終達成(年度)	評価	備考			
	総入場者数(人)	目標値	5,000	5,000	5,000	5,000			達成			
		実績値	8,970	8,283	8,840							
		達成率	179.4%	165.7%	176.8%							

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	大分県文化振興条例	アルゲリッチ芸術振興財団が音楽祭の運営を主体的に行っているが、当音楽祭は、本県を代表する文化創造事業であり、県民に優れた芸術を享受する機会を提供するとともに、大分県の芸術文化を国内外に情報発信していくため、県のサポートが必要である。

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	22年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	一部図っている(拡大可能)	・公演ごとに実施するアンケートの結果を事業遂行に反映 ・サポート委員会の活用、ボランティア研修実施等によりボランティアとの協働を推進	20年度	22年度	総コスト / 成果指標の実績値
			4,459 円/人	4,299 円/人	

[総合評価]

方向性	見直し(23年度)効率化の推進	方向性の判断理由	県民の支持を広げ、ボランティアを充実することにより、別府アルゲリッチ音楽祭の自立を図る必要がある
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> 音楽祭の運営主体であるアルゲリッチ芸術振興財団の体制強化を支援するとともに、幅広い県民の理解を得るため、子ども達や県民が本物の音楽に触れる機会となる「ピノキオ・コンサート」や「病院訪問」コンサート等の音楽を通じた社会貢献活動の一層の充実 ボランティアとの協働を一層推進させ、音楽を通じた地域振興に取り組むとともに事務を効率化 来場者及び収入の増加に向けて、県内外への広報活動を充実させ誘客を促進 24年度は、来場者及び収入の増加のため、県外からの来場者増加に向けて、音楽祭単体に止まらず、別府観光策とのタイアップについて検討 		

事業名	大分アジア彫刻展 (地域から文化力推進事業)	事業期間	平成 4 年度～平成 年度	上位の施策名	県民文化の創造
				担当課・局・室名	文化スポーツ振興課

[目的、現状・課題]

目的	対象	県民	現状・課題	日本やアジアにおける現代の多彩な芸術・文化に触れる機会が少ない。
	意図	国内外の優れた芸術・文化に触れる機会を提供する		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト				
				20年度	21年度	22年度	23(予算)	
大分アジア彫刻展(本展)	一般・学生部門の入賞作品展示(33点・2,669人来場)	負担金	大分アジア彫刻展 実行委員会	総コスト	12,225	9,250	13,225	9,000
全国こども彫刻展	全国の小・中・特別支援学校の生徒の作品展示(632点)			事業費	7,225	4,250	8,225	4,000
まちじゅう・ちょうこく・フェスティバル	豊後大野市民による野外彫刻コンクール展示(65点)			うち一般財源				
アーティスト・イン・レジデンス事業	来場者とアーティストがモニュメントを制作(530人)			人件費	5,000	5,000	5,000	5,000
アジアンフェスティバル	アジアの芸術文化・食文化に触れる機会を提供(約300人)			職員数(人)	0.50	0.50	0.50	0.50
鑑賞バスツアー(県外発着)	彫刻展鑑賞と周辺地域観光が組まれたバスツアー(166人)							
現代のかたち(紹介展示)	"現代のかたち"vol.3～5を県内外で開催(計39,812人)							

[事業の成果等]

事業の成果	第10回記念事業4事業の同時開催をとおして、全国に彫刻展をPRすると同時に、国際交流の場と自己表現・創造の機会を提供したほか、本展並びに”現代のかたち”では県民に優れた芸術作品の鑑賞の機会を提供した。更に県外発着鑑賞バスツアーの実施で、県外へのPRと同時に新たな来場者の獲得を図った。	活動指標	指標名(単位)		事業の実績		最終目標	
			20年度	22年度	目標値	目標年度		
			大分アジア彫刻展出品数(点)	311	431			
			こども彫刻展出品数(点)	345	632			
			まちじゅう・ちょうこく・フェスティバル出品数(点)		65			

成果指標	指標名(単位)	達成度	20年度	21年度	22年度	23年度	最終達成(年度)	評価	備考	
	本展の来場者数(人)	目標値		2,277		2,277			達成	ビエンナーレ(隔年)方式をとるため、隔年で事業の成果を記載している。第7回(H16)の本展入場者数を基準とする。
		実績値		1,491		2,669				
		達成率		65.5%		117.2%				

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	大分県文化振興条例	大分県出身の朝倉文夫を顕彰する大分アジア彫刻展を優れた芸術文化作品を鑑賞する契機として県民による文化創造の意欲を刺激し、また彫刻芸術を通じたアジア諸国との国際交流を推進するためには地元豊後大野市と連携(共催)して県が実施する必要がある。

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	22年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
			20年度	22年度	
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	一部図っている(拡大可能)	・鑑賞バスツアー委託による効率的な実施 ・アジアンフェスティバル・・・地元国際交流協会との実施による事務的業務の簡素化 ・市民野外彫刻展・・・地元住民の推進委員配置により合併後の地元全体に事業浸透	8 千円/人	5 千円/人	総コスト / 成果指標の実績値

[総合評価]

方向性	見直し(23年度)効率化の推進	方向性の判断理由	事業効果・効率性の向上のため
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> 重点公募国の取扱い見直し 賞(対象点数、賞金額)の見直し 海外出品者への返却手続きの指導徹底 24年度は、県外からの誘客促進策である鑑賞バスツアーのさらなる充実を検討 		

事業名	青少年舞台芸術鑑賞事業 (地域から文化力推進事業)	事業期間	平成 16 年度～平成 年度	上位の施策名	県民文化の創造
				担当課・局・室名	文化スポーツ振興課

[目的、現状・課題]

目的	対象	中学生、高校生	現状・課題	中学生、高校生が質の高い舞台公演及び美術展覧会に触れるきっかけが少なく、芸術文化に対する興味を引き出せていない。
	意図	芸術文化への興味を引き出す		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト	20年度	21年度	22年度	23(予算)
青少年舞台芸術鑑賞事業	学校を通じて、県内で行われる質の高い舞台公演及び美術展覧会の鑑賞希望者を募り、招待者を決定後、学校あてにチケットを送付 委託先：NPO法人大分県芸術文化振興会議	全部委託	県	総コスト	4,435	4,435	4,435	4,000
				事業費	3,435	3,435	3,435	3,000
				うち一般財源				3,000
				人件費	1,000	1,000	1,000	1,000
				職員数(人)	0.10	0.10	0.10	0.10

[事業の成果等]

事業の成果	活動指標	指標名(単位)		事業の実績		最終目標	
		21年度	22年度	目標値	目標年度		
公演後のアンケート調査では、「初めての生の舞台はとても迫力があり、感動した」「今までは興味がなかったが、これからもっといろいろな公演を鑑賞したいと思った」「自分のお小遣いではなかなか行くことができないので、このような事業で行くことができ良かった」といった感想が寄せられ、子どもたちにとって、文化芸術に触れるきっかけとして充分機能している。	鑑賞者数(人)	951	1,087	660			

成果指標	指標名(単位)	達成度	20年度	21年度	22年度	23年度	最終達成(年度)	評価	備考	
	鑑賞者数(人)	目標値		660	660	660	660			
		実績値		946	951	1,087				
		達成率		143.3%	144.1%	164.7%				

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	NPOとの協働が可能	大分県文化振興条例	次代の文化の担い手となる子どもたちに対して文化的環境を整備することは県の役割であり、引き続き県が実施することが必要である。

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	22年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
			20年度	22年度	
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている(拡大困難)	・平成20年度から事務を民間団体(NPO法人大分県芸術文化振興会議)に委託	4,688 円/人	4,080 円/人	総コスト / 成果指標の実績値

[総合評価]

方向性	現状維持	方向性の判断理由	中・高校生が鑑賞のきっかけを作るためには事業の継続が必要のため
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> 県内全域の子どもたちが文化芸術に触れる契機となるよう、学校へ周知 24年度は、大分市・別府市以外の遠隔市の青少年に配慮した事業実施方法について検討 		

事業名	香りの文化振興事業 (地域から文化力推進事業)	事業期間	平成 19 年度～平成 年度	上位の施策名	県民文化の創造
				担当課・局・室名	文化スポーツ振興課

[目的、現状・課題]

目的	対象	県民	現状・課題	国内有数のコレクションである県有財産が有効活用されておらず、古来から生活を豊かにしてきた香りの文化を身近に感じる機会が少ない。
	意図	香りの文化に親しむ機会を提供する		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト				
				20年度	21年度	22年度	23(予算)	
香水づくりプチ体験事業	香水づくりの出張講座をおこない、県民に香水づくりの楽しさを体験してもらう事業 委託先：別府大学 県内6か所、359名参加	全部委託	県	総コスト	7,163	5,158	5,159	5,159
				事業費	5,163	3,158	3,159	3,159
著名人による情報発信事業	川井郁子トークショーの実施 委託先：(株)学音 平成22年12月15日、大分香りの博物館 宮崎大輔トークショーの実施 委託先：(株)ベンヌ、別府大学 平成23年2月13日、大分香りの博物館	全部委託	県	うち一般財源				759
				人件費	2,000	2,000	2,000	2,000
				職員数(人)	0.20	0.20	0.20	0.20

[事業の成果等]

事業の成果	指標名(単位)	事業の実績		最終目標	
		21年度	22年度	目標値	目標年度
香水づくりプチ体験や著名人によるトークショーの実施など積極的な情報発信を行ったことにより、入館者の増加につながった。	活動指標	香水作りプチ体験イベント実施回数(回)	6		

成果指標	指標名(単位)	達成度	20年度	21年度	22年度	23年度	最終達成(年度)	評価	備考
			目標値	20,000	21,000	22,000			
	入館者数(人)	実績値		20,939	27,705	27,300		達成	
		達成率		104.7%	131.9%	124.1%			

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	なし	県の財産である旧香りの森博物館の収蔵品を貸付けて実施している事業であり、県有財産をうまく活用し、スムーズな博物館運営ができるように県が実施する必要がある。

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	22年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
			20年度	22年度	
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている(拡大困難)	・大分香りの博物館と連携し、事業を実施	342 円/人	189 円/人	総コスト / 成果指標の実績値

[総合評価]

方向性	現状維持	方向性の判断理由	香りの文化に親しむ機会の場を提供していくため、引き続き大分香りの博物館を支援していく必要があるため
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> 入館者の増加を図るため、県の広報媒体を活用した積極的なPR 24年度は、来場者増加に向けて、オンパクなど、別府イベント等とのタイアップについて検討 		

事業名	地域の文化活動支援事業 (地域から文化力推進事業)	事業期間	平成 20 年度～平成 年度	上位の施策名	県民文化の創造
				担当課・局・室名	文化スポーツ振興課

[目的、現状・課題]

目的	対象	児童、生徒及び県民	現状・課題	明日を担う子どもたちが豊かな感性と創造性を育むことは文化振興を図る上で重要であるため、県内全域の幼稚園生から高校生までの子ども達が目標にし、そのほとんどが応募する美術展を支援する。
	意図	表現力を育み、絵画作品の鑑賞機会を提供する		

[事業の実施状況]

活動名		活動内容	執行形態	事業主体	コスト (単位：千円)				
					20年度	21年度	22年度	23(予算)	
地域の文化活動支援事業		第28回高山辰雄賞ジュニア美術展の開催支援 開催期日：平成22年8月13日～8月22日 展示会場：大分県立芸術会館 応募数：111,244作品 入賞者数：推奨 1,000点、うち優賞11点 入場者数：7,126名	直接補助	高山辰雄賞ジュニア美術展実行委員会	総コスト	3,500	3,542	2,542	2,200
					事業費	1,500	1,542	1,542	1,200
					うち一般財源				
					人件費	2,000	2,000	1,000	1,000
					職員数(人)	0.20	0.20	0.10	0.10

[事業の成果等]

事業の成果	指標名(単位)	事業の実績		最終目標	
		21年度	22年度	目標値	目標年度
保育園、幼稚園、小・中・高等学校、特別支援学校から約11万1千点もの作品が応募されるなど、子どもたちの表現力や感性、創作意欲を伸ばすことに貢献するとともに、多くの県民に絵画の鑑賞機会を提供した。	活動指標	1	1		
	美術展の開催回数(回)				

成果指標	指標名(単位)	達成度	20年度	21年度	22年度	23年度	最終達成(年度)	評価	備考	
	応募作品数(作品)	目標値		100,000	100,000	100,000	100,000		達成	
		実績値		115,270	114,710	111,244				
		達成率		115.3%	114.7%	111.2%				

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	民間団体による実施が妥当	大分県文化振興条例	県内全域の幼稚園生から高校生までのほとんどの子どもが応募している全国でも例のない規模の美術展であり、県の関与は必要である。

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	22年度までの主な効率化の取組状況 ・美術芸術団体・新聞社・大分市等行政関係者で構成する実行委員会を実施	効率性指標		左の計算式 総コスト / 成果指標の実績値
			20年度	22年度	
			事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている(拡大困難)	

[総合評価]

方向性	見直し(23年度)効率化の推進	方向性の判断理由	実行委員会が補助を受けずに単独で美術展を開催できる団体へ移行する方向性をつける必要があるため
改善計画等	・補助金の上限額を1,500千円から20%減の1,200千円に見直し		

事業名	おおいた学校文化活動活性化推進事業	事業期間	平成 22 年度～平成 24 年度	上位の施策名	県民文化の創造
				担当課・局・室名	文化課

[目的、現状・課題]

目的	対象	高等学校の文化部の指導者、生徒	現状・課題	高校生の文化活動は顧問に専門的知識がないことや指導力が不足しているため、十分な活動ができていない。生徒、指導者のスキルアップと文化活動を通じて、地域文化力の向上に貢献できる人材を育成することが必要である。
	意図	指導者、生徒がスキルアップする		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト				
				20年度	21年度	22年度	23(予算)	24(予算)
バトン部指導者講習会 吹奏楽部指導者講習会 放送部指導者講習会	講習会を2回実施（教諭等延べ30名参加） 講習会を2回実施（教諭等延べ54名参加） 講習会を1回実施（教諭7名参加） 平成25年インターハイ開催に向け、3部門を選択	直接実施	県	総コスト			3,678	4,862
				事業費			678	1,862
				うち一般財源			678	1,862
				人件費			3,000	3,000
				職員数（人）			0.30	0.30

[事業の成果等]

事業の成果	バトン部については、世界チャンピオンの指導を受けたことで、生徒を含め、演技力が向上した。吹奏楽部は全国レベルの指導者による指導により、技術力や指導者の指導ポイントが明確になった。放送部は具体的なインターハイ開会式の進め方を直接聞くことによって、内容を確実なものにできた。	活動指標	指標名（単位）		事業の実績		最終目標		
			21年度	22年度	目標値	目標年度			
			講習会受講者数（人）		91	100	24		
成果指標	指標名（単位）	達成度	20年度	21年度	22年度	23年度	最終達成 (24年度)	評価	備考
	九州大会における金賞・優秀賞等受賞校数（校）	目標値			2	3	3	達成	
		実績値			2				
		達成率			100.0%				

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	なし	高等学校の文化部活動に対する援助として、県が高等学校文化連盟に補助金を交付しているが、各文化部活動に対する支援にとどまっており、更なるスキルアップを行うための支援は県以外にはない。

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	22年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し（業務の民間委託など）を図っているか	一部図っている（拡大可能）	・講習会の開催について学校と業務分担	20年度	22年度	総コスト / 成果指標の実績
				1,839 千円/校数	

[総合評価]

方向性	現状維持	方向性の判断理由	指導者・生徒のレベルアップを図るため継続して指導していく必要があるため
改善計画等	・講習会実施時期が年度末に行われ効果が見えにくかったため、年間計画を見直し効果的な講習会を実施		

事業名	おおいた夢展覧会プロジェクト 「みんなでつくる展覧会」事業	事業期間	平成 22 年度～平成 24 年度	上位の施策名	県民文化の創造
				担当課・局・室名	文化課

[目的、現状・課題]

目的	対象	大分県内児童・生徒、教職員、一般県民	現状・課題	遠隔地の児童生徒や県民は芸術鑑賞をする機会が少ない上、芸術会館と学校現場との連携が十分ではない。また、芸術会館の所蔵品が学校現場で有効活用されていない。
	意図	所蔵品への興味感心を向上し創造力を育成される		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト	20年度	21年度	22年度	23(予)
				出前鑑賞授業「展覧会を企画しよう」	芸術会館所蔵品カードを使用した鑑賞授業(14校513名受講) (実施校：小学7・中学5・高校1・公民館1 豊後高田・宇佐・別府・大分・臼杵・佐伯・竹田市・豊後大野・日田)	共同実施	芸術会館・授業実施校	総コスト
所蔵品展「みんなでつくる展覧会」	企画校：豊後大野市立朝地小4年、大分大学附属中学校1年 ギャラリー・トーク(3回 総入場者数：1,238名)	直接実施	芸術会館	事業費			2,269	2,151
鑑賞教育指導者セミナー	県内小中高の美術教員・社会教育指導員を対象とした鑑賞教育に関する研修会(62名参加)	直接実施	芸術会館	うち一般財源			2,269	2,151
鑑賞ワークショップ				人件費			2,000	2,000
				職員数(人)			0.20	0.20

[事業の成果等]

事業の成果	出前鑑賞授業には14校(小学7・中学5・高校1・公民館1)の513名が受講し、アンケート結果では児童・生徒の満足度が83%と高かった。児童・生徒の企画による「みんなでつくる展覧会」は1,238名(6日間)が来場し、概ね好評を得た。指導者セミナーの参加者は62名で、アンケートによる満足度が82%と高かった。また所蔵品(42点)の有効活用が図られた。	活動指標	指標名(単位)		事業の実績		最終目標		
					21年度	22年度	目標値	目標年度	
			出前鑑賞授業実施校(校)			14	30	24	
			みんなでつくる展覧会入場者数(人)			1,238	4,000	24	
			鑑賞教育指導者セミナー参加者数(人)			62	150	24	
成果指標	指標名(単位)	達成度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終達成(24年度)	評価	備考
	展覧会アンケート結果(%) (とても良い・良いと回答)	目標値		80	80			達成	
		実績値			87				
		達成率			108.8%				

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	なし	芸術会館の所蔵品および資料をベースとした事業であり、実施には、美術品に関する専門的な知識と経験を有する学芸員が不可欠。現在のところ他に代替可能な団体はない。

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	22年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている(拡大困難)	・出前鑑賞授業は、義務教育課の「鑑賞教育実践研究会議」と連携して実施している	20年度	22年度	総コスト / 成果指標の実績値
				26 千円/%	

[総合評価]

方向性	現状維持	方向性の判断理由	参加者の満足度が高く、継続して事業を実施する必要があるため
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年度の取り組みをリーフレットとしてまとめ、次年度以降の出前鑑賞授業の資料として活用することで、打合せや資料準備のための時間を削減 出前授業では、インターネットを利用した芸術会館所蔵品検索システムの利用を促進 より多くの入場者の獲得を目指すため、関係市町村と連携し、展覧会の広報宣伝を積極的に実施 		

事業名	県庁舎等特設ギャラリー設置事業	事業期間	平成 22 年度～平成 年度	上位の施策名	県民文化の創造
				担当課・局・室名	文化課

[目的、現状・課題]

目的	対象	芸術会館の収蔵作品	現状・課題	芸術会館は1,000点以上の洋画、彫刻、工芸作品を所蔵しているが、常設展示室がないため、恒常的に収蔵作品を展示・公開する機会が少ない。
	意図	積極的な活用で県民の鑑賞機会を拡大している		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト				
				20年度	21年度	22年度	23(予算)	
「芸術会館収蔵品特設ギャラリー」設置事業	大分県庁舎本館1階ロビー・大分県立図書館2階・大分県立病院1階中央待合ホールの各専用展示ケース内に、所蔵の洋画、彫刻、工芸作品2,3点を展示。会期は、4期に分けて展示替えをし、通年展示。	直接実施	大分県立芸術会館	総コスト			4,109	1,910
				事業費			2,909	710
				うち一般財源			2,909	710
				人件費			1,200	1,200
				職員数(人)			0.12	0.12

[事業の成果等]

事業の成果	年間利用者数が県庁舎は不明であるが、大分県立図書館は約50万人、大分県立病院は約20万人いる。多くの県民に身近な場所で美術品を鑑賞できる機会を提供し、収蔵品活用の機会が図られた。	活動指標	指標名(単位)		事業の実績		最終目標			
			21年度	22年度	目標値	目標年度				
			公開作品数(件)		27	24				
成果指標	指標名(単位)	達成度	20年度	21年度	22年度	23年度	最終達成(年度)	評価	備考	
			目標値			27				25
			実績値			27				
			達成率			100.0%				

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	なし	芸術会館に常設展示室がない状況は変わらないため、引き続き収蔵品活用及び鑑賞機会の拡大を図る必要がある。

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	22年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
			20年度	22年度	
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図れない(見直し困難)	・県庁舎、大分県立図書館、大分県立病院との連携実施(H22～)		152 千円/件	総コスト / 成果指標の実績値

[総合評価]

方向性	現状維持	方向性の判断理由	引き続き所蔵品の有効活用を図る必要があるため
改善計画等	・各開設施設に適した公開作品を選定		